

## イベント紹介

### 横浜市漁協小柴本牧海人の会 ～金沢漁港 海産物フェスタ～

本年度の水産多面的機能発揮対策報告会で、事例報告を行った「横浜市漁協小柴本牧海人の会」が、2月23日(日)に地元の漁業・食文化に触れられるイベント「金沢漁港海産物フェスタ」に参加しました。当活動グループは、同市の他の活動グループと連携し、年に2回の漁協主催のイベントでの魚食普及活動を行っており、今回のイベントは本年度2回目でした。(1回目は「柴漁港秋のさかなフェア」。横浜市漁協柴支所が柴漁港で11月に開催。)

金沢漁港には朝10時から約10,000人近い人たちが、市内外から来場していました。横浜市漁協小柴本牧海人の会は小柴の食文化を伝承するため、東京湾で獲れたシャコを使った「小柴のシャコ汁」を約300食ふるまいました。

配布の時間になると長蛇の列ができ、多くの方々が小柴の食文化に触れる機会となりました。手渡しする際には、活動メンバーから、「目の前の海で獲れたシャコをつかった小柴のシャコ汁です」と説明があり、地元の人に親しんでほしいという活動メンバーの思いが伝わってきました。

また、協力して取組を行っている活動グループ「横浜市漁協金沢未来の会」は地元産のわかめ・海苔を使った「とれたて生わかめ味噌汁・生のり味噌汁」をふるまっていました。

イベントでは、当事業に取組む方々以外にも、多くの漁業関係者が模擬店や催しを企画し、地元市民の方々が楽しめる、交流の場となりました。また、食につなげることでより身近に地元の漁村文化・食文化に触れる機会ともなっています。

活動メンバーには地元で獲れた様々な漁業を営む漁業者もおり、地魚がどのように獲れ、どのようにすればおいしく食べられるのかを、直接PRできる場にもなっていたようです。



## 公式WEBページ

全国の取り組み情報や、サポート情報、講習会・報告会についての最新情報を掲載しております。

<http://www.hitoumi.jp/>



全国漁業協同組合連合会 漁政部 田中・関根・金田

電話:03-3294-9616 FAX:03-3294-9658

E-mail:k-support@zengyoren.jf-net.ne.jp

全国内水面漁業協同組合連合会 みす みたらい 三栖・御手洗・吉川

電話:03-3586-4821 FAX:03-3586-4898

E-mail:n-tamenteki@naisuimen.or.jp

お問い合わせ

## 漁村の役割と 水産多面的機能発揮対策事業

漁村には、おいしい魚を提供する以外にも、多くの役割があります。たとえば、水域の監視をしたり、海や川・湖の環境をまもったり。他にも、伝統的な文化や食べ物等があったり、時に学びの場になったりもします。

そのような漁村の役割をより効果的に発揮しようと活動を行う全国の漁師や市民のみなさんを支援する事業が、本年度から始まり、その取組が全国に広がっています。

(水産多面的機能発揮対策事業)

# 海のゆりかご通信

≈ Vol.043 ≈

## 今月の活動レポート

### ～海難救助～

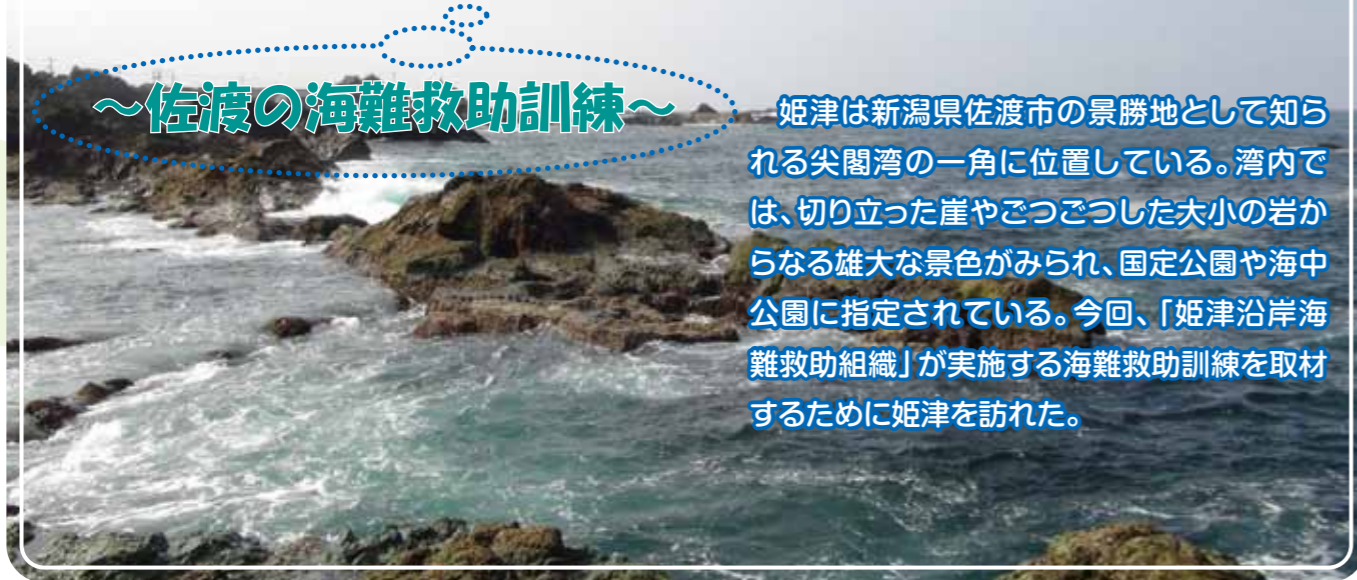
今回の海のゆりかご通信では、海難救助訓練を行う活動組織の一つである「姫津沿岸海難救助組織」の取組をご紹介します。

活動組織名	姫津沿岸海難救助組織
場所	新潟県佐渡市
主な活動内容	海難救助訓練



# 姫津沿岸海難救助組織

## ～佐渡の海難救助訓練～



姫津は新潟県佐渡市の景勝地として知られる尖閣湾の一角に位置している。湾内では、切り立った崖やごつごつした大小の岩からなる雄大な景色がみられ、国定公園や海中公園に指定されている。今回、「姫津沿岸海難救助組織」が実施する海難救助訓練取材のために姫津を訪れた。

### 姫津漁港の風景

平成26年3月1日、午前11時。姫津漁港岸壁には操業を終えた刺網漁船などが停泊しており、漁獲されたマダラの入った水槽の脇で親子と思われる漁師が網の修理をしていた。荷さばき場では、水揚げされたばかりのイナダ（ブリの幼魚）やウスメバル（地元ではタカナまたはメバル）の出荷作業を、若い漁師たちがてきぱきと行っていた。



姫津の主な漁業はイカ釣り漁、刺網漁（マダラ、ウスメバル）、カゴ漁（ホッコクアカエビ、地元では甘エビまたは南蛮エビ）、一本釣漁（ブリ）で、活動組織の代表である姫津漁協の森川森一組合長は、「漁業の現状は厳しいが、主力となる船（イカ釣り、刺網、カゴ）では20代の後継者が育っているのが心強い」と語る。

正午ころ、漁協近くの食堂で海鮮丼を注文。一本釣で水揚げされたばかりのイナダやホッコクアカエビ、ズワイガニなどの姫津の海の幸を満喫した。

### 海難救助訓練



午後1時、漁協の荷さばき場に集合して訓練開始。参加者は活動組織23名、佐渡海上保安署2名の計25名、参加漁船は18隻。森川組合長と海上保安署の木下次長の開会挨拶に続き、無線設備に詳しい活動組織の構成員の鈴木さんが訓練の概要と無線機の操作方法について説明。訓練は海岸局（漁協2階の無線局）と船舶局（遭難船舶想定船：明信丸、遭難船舶の搜索想定船：佐光丸、その他の訓練参加船：16隻）に分かれて下記の訓練が実施される。

- ・緊急波（緊急通信用の周波数27.524MHz）を使用した試験通信
- ・活動組織の周波数（通常波）を使用した緊急通報の発信・受信
- ・通常波を使用した海上搜索訓練



いよいよ海上での訓練が始まる。森川組合長の明信丸に乗り込み姫津漁港を出港。港外にでると若干ウネリがあったが、「海は今の時期にしては穏やか、夏はベタ凧」と、森川組合長。緊急波による試験通信が終了し、通常波による遭難船舶想定船の明信丸と海岸局との間で緊急通報の発信・受信が始まる。船内に緊張が走る。

海岸局：「訓練、訓練、こちら姫津漁業、姫津漁業」  
 「緊急通報の発信及び受信の訓練を開始します」「明信丸、明信丸、これより緊急通報を発信してください」  
 明信丸：「訓練、訓練、姫津漁業、姫津漁業、こちら明信丸、明信丸、これより緊急通報を発信します」



大和丸船内には緊急通報受信のアラームが鳴りわたり、船内の無線機には「緊急通報を受信しました。船舶識別番号：〇〇〇〇、船名：明信丸、緯度：北緯〇〇度〇〇分、経度：東経〇〇度〇〇分、相対距離：〇〇海里、相対方位：〇〇度」という文字情報が表示された。

「ボタン一つで船名と遭難場所の緯度・経度がデジタルで表示されるので有難い」と森川組合長。その後、搜索訓



練をしていた佐光丸から明信丸を発見し状況を確認した旨の通信があり、海上での訓練は終了した。

初めての海難救助訓練ということで、緊急波と通常波の切り替え操作に戸惑った船もあった。また、一部の船では緊急通報の受信がでなかつたので、早急にご原因を解明して本番の緊急時に備えるそうだ。



### 取材を終えて

海上安全の強力なツールとなる新型の無線設備の導入が、姫津の漁師のさらなる結束や地域活性化のきっかけとなり、多くの後継者が育ち羽ばたいていくことを期待したい。

### ～今月のリポーター～

翌日、姫津から新潟行きフェリーターミナルのある両津港に向かう途中、里山で優雅に飛翔する3羽のトキをみました。佐渡トキ保護センターで飼育され、野生復帰ステーションでの順化訓練を経て放鳥された、野生に戻りつつあるトキであろう。トキ個体群の野生復帰が実現する日も遠くないと感じました。

### 益原 寛文

(ますはら・ひろふみ)

里うみサポーター(国民の生命・財産の保全、地球環境保全、漁村文化の継承)  
 瀬戸内海の島に生まれ、物心つくころから藻場や干潟に親しむ。35年間の環境調査会社勤務を経て、太宰府に技術士事務所を開設。里海の保全などに取り組む。

